

都市再生緊急整備地域の地域整備方針(素案)

(松戸市)

地域名称	整備の目標	都市開発事業を通じて増進すべき都市機能に関する事項	公共施設その他の公益的施設の整備に関する基本的事項	緊急かつ重点的な市街地の整備の推進に関し必要な事項
<p>松戸駅周辺地域</p>	<p>〔都市再生緊急整備地域〕</p> <p>松戸市は、都心から20km圏内という立地から、良好な住環境が整備され、2015年3月には、JR常磐線が東京駅や品川駅に直接乗り入れし、2018年6月には、東京外かく環状道路の松戸インターが開設するなど、首都圏との交通アクセスは更に向上した。</p> <p>さらに、東京外かく環状道路と成田空港を最短で結ぶ北千葉道路が全線開通に向けて計画が進められているが、全区間整備により広域的な道路ネットワークが形成され、インバウンド効果、都市の活性化などの期待が寄せられている。</p> <p>松戸駅周辺では松戸駅が沖積層からなる低地部分にあり、一方で新拠点ゾーンが洪積層の安定した高さ20mの台地に位置している。また、江戸川、坂川、松戸中央公園、戸定ヶ丘歴史公園等の「水・みどり資源」や戸定邸（国指定重要文化財）をはじめ旧水戸街道沿いには松戸宿、松戸神社、松龍寺等の「歴史資源」を有している。</p> <p>こうした特性を生かし、働き方改革によるライフスタイルの変化を見据え、業務・文化・商業・居住機能を備えた新たな職住近接都市を形成することで、東京都心3区の一極集中の課題に貢献し、切迫する首都直下地震等大規模災害のリスクを低減する強い都市環境を整備することにより、これまでの東京の衛星都市から脱却した新しい大都市近郊型都市を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ②③⑤都心近郊地における職住近接のライフスタイル実現に向けて、都心オフィスのサテライトとしての業務機能を充実させ都心ワーカーの通勤時間短縮や子育て中の女性も働きやすい環境を構築 ○ ②⑤共働きの子育て世代や外国人ワーカーなど、すべての人にとって暮らしやすい居住・生活利便機能を強化 ○ ②③コンテンツ産業の集積に向けた取り組みを推進し、文化・芸術・先端テクノロジー等クリエイティブ分野の働く場、交流の場、地場産業を生かした職機能の場となるインキュベーション機能や情報発信機能を充実・強化 ○ ④地元大学と連携した創業支援、産業支援による新規ビジネス創出環境の構築 ○ ⑥江戸川周辺では水辺を生かしたスポーツ・レクリエーション機能等の導入 ○ ①大規模災害等発生時に松戸駅周辺の帰宅困難者の安全を確保する都市防災機能や首都圏本社の事業継続が可能なバックアップオフィス機能の強化 ○ ⑥歴史・文化やみどりを核とした空間で、職住が近接した新しいライフスタイルを創造 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ②③⑤交通結節機能を強化する駅舎改良及び東口駅前広場の整備や駐輪・駐車場の改善 ○ ②③⑤市街地整備と併せた交通動線の改善 ○ ②③⑤駅から周辺施設へのアクセスを改善する歩行者デッキの整備及び歩行者が東西をスムーズに移動できるバリアフリー化された連絡橋の整備 ○ ①新拠点ゾーン整備と併せた松戸中央公園の再整備による防災拠点の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ①②③④⑤⑥新拠点ゾーンにおいては、松戸の新たな顔となる便利で魅力あふれる拠点を形成し、多様な機能の集積を図り、ランドマークとなる多機能拠点を整備 ○ ②③⑤駅周辺においては、商業の活性化と若者世代や子育て世代に向けた都市型住宅を供給し、建築物と公共施設の一体的な整備や高度利用による都市開発事業を促進 ○ ⑥新拠点ゾーンから江戸川までのシンボル軸においては、駅から周辺施設へのアクセスを強化するバリアフリー化の推進と本市の玄関口として相応しい格調の高い景観形成を推進 ○ ④公民学連携によるエリアマネジメントにより、まちの魅力とにぎわいを創出するとともに、地域や大学と連携したまちの持続的な維持管理・運営を推進 ○ ⑤クラウドファンディングを用いた空き店舗等の活用により地域を活性化 ○ ⑥江戸川との関係を意識し、歴史を生かしながら市の顔となる松戸駅周辺として賑わいやうるおいをもたらす都市基盤整備を推進 ○ ③ドローンに関する先進的な知見の集積により、外部企業を誘引